

仮想アプライアンス上での Prime Infrastructure (PI) の CLI root ユーザ パスワード回復プロセス

内容

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[手順](#)

概要

このドキュメントでは、仮想アプライアンス (VM) にインストールされている Prime Infrastructure アプリケーションの CLI ルート (シェル) ユーザ パスワードの回復手順について説明します。

前提条件

要件

使用方法および使用方法に関する知識があることが推奨されます。 VMware vSphere クライアント、vSphere インベントリ、データストア、オブジェクト機能へのアクセス

注意：このドキュメントの手順を完了するには、アプリケーションをシャットダウンする必要があります。したがって、メンテナンス時間帯にこのアクティビティを実行することを推奨します。

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、次のソフトウェアのバージョンに基づいています。

- VM にインストールされた Prime Infrastructure 2.2.x、3.0.x、3.1.x のバージョン。
- 次のリストから iso イメージのコピーを作成します。

CentOS-5.10-x86_64-bin-DVD-1of2.iso

CentOS-5.11-x86_64-bin-DVD-1of2.iso

CentOS-6.6-x86_64-bin-DVD1.iso

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されました。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、初期 (デフォルト) 設定の状態から起動しています。対象のネットワークが実稼働中である場合には、どのようなコマンドについても、その潜在的な影響について確実に理解しておく必要があります。

手順

ステップ1:VMware vSphere Clientを起動し、ESXiホストまたはvCenterサーバに接続します。

ステップ2：上記のリストからダウンロードした.isoイメージをOpen Virtual Appliance(OVA)マシンのデータストアにアップロードするには、次の手順に従います。

1. vSphereサーバで、[Inventory] > [Summary] > [Datastores]に移動します。
2. [オブジェクト]タブで、データストアを選択し、ファイルをアップロードします。
3. [データストアストアファイルブラウザに移動]アイコンをクリックします。
4. 必要に応じて、[新しいフォルダの作成]アイコンをクリックし、新しいフォルダを作成します。
5. 作成したフォルダを選択するか、存在するフォルダを選択し、[ファイルのアップロード]アイコンをクリックします。[Client Integration Access Control] ダイアログ ボックスが表示されたら、[Allow] をクリックして、プラグインからオペレーティング システムにアクセスできるようにし、ファイルのアップロードに進みます。
6. ローカルコンピュータで、isoファイルを見つけてアップロードします。
7. データストア ファイル ブラウザを更新して、アップロードされたファイルを一覧表示します。

ステップ3:isoイメージがデータストアにアップロードされたら、次の手順に従ってデフォルトのブートイメージにします。

1. VMware vSphereクライアントを使用して、PI VMホストを右クリックし、[コンソールを開く]をクリックします。
2. adminユーザでCLIにログインし、「halt」と入力してVMをシャットダウンします。
3. [設定の編集] > [ハードウェア]に移動し、[CD/DVDドライブ1]を選択します。
4. [Device Type] で、[Datastore ISO File] を選択してから、[Browse] ボタンを使用して、データストアにアップロードした ISO イメージ ファイルを選択します。
5. [Device Status] で、[Connect at power on] を選択します。
6. [オプション]タブをクリックし、[ブートオプション]を選択します。[Force BIOS Setup] で、[Next time VM boots, force entry into BIOS setup Screen] を選択します。これにより、仮想マシンの再起動時に仮想マシンのBIOSからブートが強制的に実行されます。

7. [OK] をクリックします。

8. VMware vSphereクライアントで、展開したPI VMを右クリックし、**[電力] > [電源オン]に移動します。**

9. BIOSセットアップメニューのPIコンソールで電源をオンにした後、デバイスのブート順序を制御するオプションを見つけて、DVD/CD-ROMを一番上に移動します。

ステップ4：次の手順を実行して、PI CLIルート/シェルパスワードをリセットします。

1. Tプロンプトで**linux rescue**と入力し、Enterキーを押します。

2. 言語/キーボードのデフォルトオプションを選択し、ネットワークオプションを選択しません。

3. メッセージとして次のように表示されます。

現在、救助環境はLinuxのインストールを見つけ、ディレクトリ/mnt/sysimageにマウントしようとしています。その後、システムに必要な変更を行うことができます。この手順を続行する場合は、**[続行]**を選択します。「読み取り専用」を選択して、ファイルシステムを読み取り/書き込みではなく読み取り専用でマウントすることもできます。何らかの理由でこのプロセスが失敗した場合は、**[スキップ(Skip)]**を選択してこのステップをスキップし、コマンドシェルに直接移動できます。

4. この画面で**[続行]**を選択します。

5. 既存のインストールが見つかり、そのインストールは/mnt/sysimageの場所にマウントされ、コマンドプロンプトに移動します。

ステップ5：次のコマンドを使用して、rootをPIのインストール場所に変更します。**# chroot /mnt/sysimag。**

ステップ6：次のコマンドを使用して、データ/rootpatchpwを移動します。**#mv /storeddata/rootpatchpw /root/。**

ステップ7：次にexitと入力し、Enterキーを押します。

ステップ8:rebootと入力し、PIにブートします。

ステップ9:vSphereクライアントで仮想マシンをリブートしたら、CD(コンパクトディスク)アイコンをクリックし、**[Disconnect ISO image]**を選択します。

ステップ10：ブートが完了すると、PIサービスが起動します。PI管理CLIにログインし、**root_enable**コマンドを使用して新しいルートパスワードを設定します。

注：PIバージョンが3.1.xリリースの場合は、**root_enable**の代わりに**shell**コマンドを使用してパスワードを設定します。